

会議概要

発言者	発言内容
<b>令和3年度の取組について</b>	
竹内委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度の取組について意見や、感想、今後このような取組も必要ではないかといった提案をお願いします。</li> </ul>
小坂委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校生ビブリオバトル大会について、昨年度はコロナの影響により行われなかった。前任校では、図書委員や、希望者が出場していた。10月の実施だったと思う。8月実施予定のシンポジウムの内容として、ビブリオバトル大会があったが、8月となった場合、脱水症状が心配である。聞く方も集中力が必要となる。</li> <li>○ ビブリオバトル大会が現在の10月から8月と2ヶ月前倒しとなった場合、バトラーの指導、準備が大変ではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在は、令和4年度に実施するシンポジウムのメニューの一つとしてビブリオバトルの案も出ている段階である。</li> <li>○ 今年度のビブリオバトルは、10月末を予定している。会場は、例年の若草通を変更し、県立図書館で実施する予定である。</li> </ul>
井澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マイラインサービスの高校での利用状況を注目している。総合的な探究の時間で利用されていると思う。高校での現状を知りたい。</li> </ul>
相良委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校の校種で対応が異なる。現任校の普通科高校では、受験まで時間がある1年生に向け、様々なジャンルの本を準備している。また、2,3年生に対しては、進路を見据えた本を揃えている。</li> <li>○ レファレンスに力を入れている。学校図書館が自分たちの学びに役立つ場であると分かってもらえるような取組を行っている。</li> </ul>
竹内委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎年、高校から探究の時間の指導を依頼されるが本年度は、「高校生に読ませたい本を紹介してください。」との依頼もあった。高校での読書活動推進に関する取組は、発展していると感じている。</li> </ul>
小島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年度から県と連携し、読書サポーター養成講座を実施している。昨年度、20～30名の参加があった。県は、読み聞かせボランティアを10年以上経験した人を「読書マイスター」とすることを目指している。研修会を通じて育成していきたい。</li> </ul>
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和4年のシンポジウムは初めての取組か、配信での参加も可能か、シンポジウム開催日前後の活動は無いのか。</li> <li>○ 自分の息子が通学している支援学校では、ビブリオバトルを実施し、表彰を行っている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ シンポジウムの配信については、準備委員会でも意見が出ている。著作権の問題もあるので、今後も検討が必要である。</li> <li>○ シンポジウム開催日前後のイベントについては、準備委員からも意見が出ている。</li> <li>○ ビブリオバトルについて、県主催の高校生の大会が行われている。特別支援学校の高等部の生徒が参加について、高校教育課と打ち合わせをしていきたい。</li> </ul>

発言者	発言内容
玉城委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼稚園では読み聞かせに力を入れている。感染症防止として、人数を制限したり、屋外の木陰で実施したりしている。</li> <li>○ 幼稚園では、保護者が絵本の修理をしているが、その際、子どもたちに人気の本についての話をしている。</li> <li>○ 読み聞かせから、本が好きな子供に育つことに繋がると良い。</li> </ul>
中山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西都市内の小学校では、学校司書が配置されておらず、厳しい現状がある。週1回アシスタントが来校し、助けをもらいながら学校図書館の運営をしている。</li> <li>○ 本離れと一緒に、メディアコントロールについて考えていかなければならない。勤務校では毎月1回読書の日を設けているが、その日は本に親しむ日で、宿題無しとしている。読んだ本の紹介文を読むと、子どもたちは、魅力的な本を読んできている。</li> <li>○ 学校現場では、限られた人材の中でどのように取り組むかが課題となっている。</li> </ul>
森山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 延岡市内の小中学校では、多くの学校で読み聞かせが行われている。自分の子どもの学校では、週1回保護者が読み聞かせを行っている。読み聞かせをまとめる方がいるので、その方が、ボランティア養成研修会を受けると多くのボランティアに広がっていくと感じる。子どもの卒業後もボランティアを続ける人が増えると良い。学校で読み聞かせを行っている人にもボランティア養成研修会の告知や案内が届くと良い。</li> </ul>
竹内委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児、小学生は保護者や教職員も巻き込みながら、提供する側と提供される側、両方が相乗効果で読書活動を推進しており、高校では生涯読書に向けての一つとしてビブリオバトルがある。</li> <li>○ 大学では、研究テーマに対する意見を述べるパートナーとして本を読んでいる。生涯読書という観点では大学が取り組んでいないと感じた。</li> <li>○ 社会に出た後にも読書推進の仕組みがある。生涯読書の視点から、成合委員の取組を取り上げたTV番組を紹介したい。(TV番組紹介)</li> </ul>
成合委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見ていただいた実践は、認知症をテーマにした本に関連した取組だったが、様々なカテゴリーの本があるので、様々な活動ができると思う。図書館の機能と、本の持っている力が重なると、地域づくりの一環としても、書籍が活躍できると思う。</li> </ul>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「読書サポーター」、「読書マイスター」を養成する活動は、学校の先生やPTAを対象とした活動であるのか。もしそうであれば、様々な人が参加することができる講座であるとよい。</li> <li>○ 会の冒頭、課長が本を3冊紹介したが、県民が気楽に本の紹介が出来る場があると良い。</li> <li>○ 著作権について、近年本の売り上げは厳しい。本の売り上げを伸ばす取組であれば、出版者にとがめられないのではないか。</li> <li>○ 宮崎県読書活動推進計画は漢字が並んでいる。わかりやすい表現になるとより多くの県民に浸透していくのではないか。</li> </ul>

田中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 著作権について、昨年度、絵本を使って人権のイベントを行った際、様々な出版者に問い合わせたところ、使い方により、使用が許可となった。</li> <li>○ 昨日、日南市の無人本屋「ほん、と」に行ってきた。24時間営業のコンテナハウスに本が置いてあった。本には、メッセージが添えられており、読んだ人も感想を書くことが出来るシステムで、知らない人から知らない人へ本を繋いでいくという活動を知った。</li> </ul>
<b>読書バリアフリー計画について</b>	
日高委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立図書館では、障がい者サービスとして、障がい者郵送貸出サービスと視覚障がい者サービスがある。</li> <li>○ 障がい者郵送サービスは、来館が困難な障害者手帳や精神障害者福祉手帳等を持っている方を対象として、所蔵している資料を自宅に郵送するサービスである。貸出数は来館利用者と同様であるが、貸出期間は30日以内となっており、延長はできない。返却の際、郵便局に集荷を依頼することも可能である。令和2年度の実績は、年度末の登録者39名、1年間の利用冊数402冊であった。</li> <li>○ 視覚障がい者サービスは、視覚障害、高齢や病気その他の障害のため、活字で読書することが困難な方向けにDAISY録音図書、再生機器を貸し出すサービスである。障害者手帳の有無は問わず、対象者であるか聞き取りで確認している。貸出数、期間は来館者と同様に10冊、2週間以内である。令和2年度の利用実績は、年度末の登録者28名、うち、郵送貸出サービスの登録者は20名、1年間の貸出数は641冊うち、郵送貸出サービスは535冊であった。</li> <li>○ 2つのサービスを利用した場合、DAISY録音図書を自宅で受け取ることが可能である。</li> <li>○ 2つのサービスは無料で、代理人がすべての手続きを行うことも可能である。</li> </ul>
大賀委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 視覚障がい者センターでは、視覚障がい者への情報提供を行っている。以前は、「点字図書館」という名称で点字図書や音声図書の貸出がメインであった。現在は、様々な相談事や資料の提供等、全てにサービスを行っている。</li> <li>○ サービスの一つとして、音声図書や点字図書の製作を行っている。</li> <li>○ 貸出について、視覚障がい者には移動の困難があるため、郵送での貸出がほとんどである。電話で依頼を受け、点字郵便を使い無料でのやりとりを行っている。</li> <li>○ 図書に限らず、生活に関する様々な資料への点訳や音声訳等を希望者に行っている。制作費は無料で、紙代、CD代等の実費をもらっている。</li> <li>○ 現在は、ネット上でダウンロードして聞くことが可能である。点字についても、専用のソフト、ディスプレイを使用すれば、手元に呼び出し、読むことが可能というかたちに変わってきている。今後も変わっていくと考えられる。</li> </ul>
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明星視覚支援学校は、県内唯一の視覚に障がいのある人が学ぶ学校で、幼稚部の3歳から、専攻科の46歳まで、24名が通学している。</li> <li>○ 全盲の人数が5名、弱視の人数が19名である。また、点字教科書を使用している児童生徒が8名、活字を使用している児童生徒が15名である。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単眼鏡、拡大読書器や電子機器等様々な道具を使用しながら文字を読んでいる。</li> <li>○ 点字ディスプレイを使用する生徒も在籍しているが、機器が進化している。日常生活として宮崎市が支援する金額で購入できる点字ディスプレイは、生産終了となっている。この点について、改善していただきたいと思っている。</li> <li>○ 学校の図書室には、点字図書、大活字本、DAISY 図書等を置いている。</li> <li>○ 点字図書は、1冊の本が分冊になっており、その分、場所が必要なため、今後対応が必要と考えている。</li> <li>○ 理療科生用として専門的な図書も収集している。</li> <li>○ 新刊図書は図書室の正面に、DAISY 図書は墨字の図書と一緒に展示するなど工夫している。</li> <li>○ 生徒の実態として、幼稚部は、音の出る絵本、触って楽しむ絵本で読書に親しんでいる。小学部は点字付き絵本を好んで読んでいる。中学部は受験に関わることもあり、拡大本や一般図書を拡大器で読み込んで読んでいる。点字使用の生徒は、少しでも早く読めるよう、繰り返し点字本を読んでいる。高等部の点字使用者は、点字ディスプレイを使いこなしている生徒もいる。理療科は、オンライン図書館であるサピエ図書館を利用しているなど、ICT活用に移行している。</li> <li>○ 図書室については、図書担当を2名配置し、動線づくりや書架づくりを行っている。</li> <li>○ 生徒図書委員会では、図書室整備やPOP やしおりづくりを行っている。</li> <li>○ 課題として、幼児、児童、生徒に合った点字本が少ない、サピエ図書館を活用しているが、印刷製本業務に当たることが出来る職員の時間確保が困難である、点字専用プリンターの図書室配置、活用されていない点字本の扱い、図書室の場所の問題がある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後は、「宮崎県読書バリアフリー計画」を策定していく。宮崎県生涯読書活動推進計画の中に入れることを想定している。</li> </ul>
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 視覚障がい者等とあったが、「等」について具体的に聞きたい。発達障害、脳障害等様々な障がいにより、本と親しむことができない事があると思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字を読むことに困難を抱えている方と考えている。</li> </ul>
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表記の検討をお願いしたい。</li> </ul>
内勢委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立図書館の『視覚障がい者等サービス』では、手帳の有無は問わないとのことであったが、発達障がいや引きこもり等で「手帳を持っていないが図書館に行くことが出来ない人」への『障害者郵送貸し出しサービス』がどうなっているか教えていただきたい。</li> </ul>
日高委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 視覚障がい者等サービスは、DAISY 図書のみが貸出対象である。来館できない人で、DAISY 図書以外の図書を利用している人の数は、今持ち合わせていない。</li> </ul>

内勢委員	○ 「読書バリアフリー法」(障害の有無に関わらず、すべての人を対象としている)に則り、読むことが困難な人のみならず、例えば人の中に入って行けない人や手帳を持っていない人も「障害者郵送貸し出しサービス」等の対象になっていくと良い。
竹内委員長	○ 学ばないと本当のニーズが見えてこないなので、今後、皆様にアンテナを張って学んでいただき、よりよい計画を策定したい。
<b>全体を通して</b>	
成合委員	○ 「読書バリアフリー計画」策定の際は、当事者の声を聞くことが大変重要である。事務局はどのように考えているのか。
中島委員	○ 特別支援学校は、教室不足の課題を抱えており、学校図書館の整備ができていない。改善について声を上げていく必要を強く感じた。 ○ 今回、実際に活動している方を知ったので、今後、活用していきたい。
小島委員	○ みやぎき読書サポーター活動促進事業については、県の主催事業であるが、市町村としても、幅広い世代に募集をしていきたい。 ○ 障がい者の方の読書推進について、環境を整えていきたい。さまざまな図書について紹介し、活かせる読書サポーターを養成していきたい。
中山委員	○ 学校では、GIGA スクール構想により ICT 活用推進の大波が来ている。読書も一つの手段と思う。何のために読書を推進するか、語彙力を培うためか、日常の課題を解決するためか、物語を読むためか、人と繋がるためか、目的を言えるようにしないといけないと改めて感じた。ICT、読書の狭間で揺れている点を、現場からの声として伝えたい。